

令和元年度 第3回市立小諸図書館協議会 議事録

日時 令和元年9月13日(金) 午後1時30分～午後3時00分

場所 交流センター会議室4

出席者

〈 委員 〉

星野郁雄会長 関口留美子副会長 畑明美委員 小宮山勝彦委員 蓬田美智子委員
中島恵子委員

〈 小諸市教育委員会 〉

安藤貴正文化財・生涯学習課長 土屋千浩文化財・生涯学習課主事

〈 市立小諸図書館 〉

土屋裕一館長 運営一部業務受託者特定非営利活動法人本途人舎業務責任者大林晃美

1. 開会

2. あいさつ

星野会長あいさつ

今年度は全5回協議会がある中で、半分が終わろうとしています。図書館について盛り上げていく役目なので、今日もよろしくお願いします。

3. 協議事項(議事進行 星野会長)

(1) 第4次子ども読書活動推進計画素々案について(大林説明)

第2回ワークショップ(9月6日)報告

《素々案から第3次からの変更部分について》

- ・第3次まで推進主体であった「家庭」を、“推進主体としての検証が難しい”ということから推進主体から外し、「子ども」と同じく『対象』としたこと
- ・取り組みで「小学校、中学校、高等学校、養護学校」をひとくくりにしていたものを「小学校」「中学校、高等学校」「養護学校」に分けたこと
- ・「地域」を「ボランティア」と「子どもたちが住んでいる地区」として捉えたこと
- ・市立小諸図書館の取り組みを各推進主体ごとに分けたこと

《言葉の説明》

「より質的な部分に重点を置いた取り組み」

- ・学校においても公立の図書館においても、ある一定のシリーズ本から脱することがなかなかできない実態がある。その先の読み物への提示が第1次の頃からの課題である。『「集団で聞く楽しみ」と「個の楽しみ」との違い』
- ・「集団で聞く」とは、幼稚園などで行われるクラス等のみんなで共有して楽しむ読

み聞かせ、「個の楽しみ」とは、一人読みのことではなく、家庭等で読み聞かせてもらうその子のためだけの読み聞かせの楽しみの意味であること

・第1回ワークショップ（6月18日）の中で、「家庭での読み聞かせの習慣がなくなってきているのではないか」という意見の背景には、“読み聞かせをたくさんしてもらっているから家では必要ない”とか“子どもたち自身も、おなかいっぱいになってしまっているのではないか”という考察から、家でのその子のためだけの読み聞かせを大切にしてもらいたい、という思いからの取り組みである

《第2回ワークショップ（9月6日）の意見から》

・小学校の取り組みの前文は、学校図書館に焦点をあてるのではなく、「学校」として取り組むことの内容にしたほうがいいのではないか。

→皆さんの意見もお聞きしたい

・数値目標が厳しいのではないか。少子化の中、現状維持でも難しいと思う。

→18歳以下の小諸市の人口の約半数程度の登録がある。目標値は1%程度の増加をめざしている。「借りられた児童書の冊数」では、平成30年度の登録者数から年間の貸出冊数を出し、登録者がプラス1冊借りると想定して目標値を設定した。「お話し会に参加する子どもの数」でも、年間48回のお話し会での増員を想定した数になっているので、努力次第で可能な数字設定だとは思っている。

●「中学校・高等学校の取り組み」について、「読書活動」だけではなく「主体的な学び」が必要。読む力を育むのは、読書からだけではない。調べ学習の中で常に思うのがSNSとの関係。「上手な付き合い方」は図書館が核になって伝えていく必要があるのではないか。情報過多であり、しかも偏りがある。同じような意見の記事しか見ないので偏ってしまう。98%くらいが所持しており、手軽にスマホを使う。パソコンよりも手軽。読書計画に直接は関係ないかもしれないが、だからこそ大切だと思う。

●新聞にも出ていたが、小学生からスマホを持たせていると。

●中学校にはすでにタブレットが配置され、小学校も来年度から配置される予定。根本的なことをなにも議論しないまま、危機感を感じている。

●すごく手軽に答えに行きついてしまう。結果が早い。考えることをしない。そういう世の中になっている。

●だからこそ「本に戻る」ことが必要。「読書活動」するしかない。

●環境を整えていく必要がある。子どもに本や情報を渡す「人」を育てないと。

●おはなしきしゃポッポ（0～3歳児むけお話し会）にずっと関わっている。「テレビみたいに笑ってくれば成功」ではない。お話し会の中では、実物を持ってきて見せたり、それに関連する本や話をしている。その時わからなくても、何年か経って「本」に結びついてくれる、あの時のあの話は・・・と。どこかで本を好きになってもらえればいい。小さいときの経験が大きくなってでてくると思う。

●「読み聞かせ」のされすぎ、ということはないと思う。シャワーのように浴びたほうがいい

い。孫は本が大好き。原点は「きしゃポッポ」だと思う。今、実体験につながっている。すごく時間のかかること。スマホとかにいても、「本」に戻れるかは体験に依ると思う。ワークショップでも出ていたが、種をまいて、芽を出して、花を咲かせるまでには時間がかかる。種をまくことが大事。

- 読み聞かせにおなかいっぱい、ということには違和感がある。小学校でも、6年生も読み聞かせを楽しみにしている。大事にしていきたい。図書館にいてホッとする時間がある。
- 「小学校の取り組み」の前文部分について、小諸市の学校図書館は他市とは位置づけが違う。「事務」となっていて補助的な役割になっている。どの学校の図書館司書も子どもたちのために頑張ってくれているが、今の位置づけでは学校全体の取り組みとしての前文にしたほうがいい、というのは解る。市内の学校図書館は連携が良くできている。

(2) 第5回協議会の視察研修場所について

いくつかの候補地の提案をいただいているので、日程等を考慮し決定します。決まり次第お知らせします。

(3) 図書館の運営についての意見交換 【資料1：統計】

利用統計の説明と半年の間で新規ではじめた事業について（大林）

- ・高齢者施設2施設に団体貸出し開始と本の入替時に朗読会の実施
- ・1保育園への団体貸出し開始と出張お話し会の実施
- ・こもロッジへの出張お話し会（不定期）の開始
- ・子ども選挙実施→公約によりテラスでの食事可能に
当選者キートの郷土エリアでの活躍はこれから（ただ今制作中）
- ・工作イベント開催 次回は10月6日ふ〜どまつりに合わせた「和とじ本制作」年末には「しめ縄づくり（ごぼうじめ）」も予定している。
- ・図書館友の会（仮）9月16日の勉強会から本格始動となる

館長：くれぐれも無理が生じないようにお願いしている。これから「まちづくりの拠点」となりうるか、が大事。活動を膨らましていけるように。外に出る機会が増えるとマンパワーが必要になる。二人三脚のような形で、協力し合っていきたい。

課長：毎年、受託者として評価していかなければならない。不具合があれば改善をしてもらわないとならない。質の落ちない運営を心がけてもらい、聞き取りながら進めていきたい。

4. その他

1) 蔵書点検報告【資料2】

2) 避難訓練について（大林）

- ・10月31日（木）にこもろプラザ全体で避難訓練を予定している。

・利用者のボランティアを募り、利用者と一緒に火災発生での設定での避難訓練にする予定。普段使わない非常口を使って避難を行う。ぜひ、みなさんのご協力をお願いしたい。

【次回の予定】

令和元年11月15日（金）13：30～

交流センター会議室4

5. 閉会

館長：「豊かな心を育む」「豊かな読書活動」とは何か？と考えている。人の表情、思いがあるのが読み聞かせ、SNSとの大きな違いだと思う。「豊かな読書活動」を考えていきたい。